



津峯スカイライン  
津波避難時など  
無料開放

津峯山に登る有料道路・津峯スカイラインを管理・運営する津峯観光株式会社と阿南市との間で、津波避難時などに料金所ゲートを無料開放し通行できるようにする「災害時における車両の津峯スカイライン無料通行に関する協定」の調印式が、8月17日、市役所で行われ、岩波嘉仁阿南市長と津峯観光株式会社代表取締役社長の玉置 潔さんが調印を交わしました。

この協定は、徳島県沿岸部に津波警報・大津波警報が発表された場合や富岡・見能林地区で大規模な火災もしくは爆発等が発生した場合に、津峯スカイラインの料金所ゲートを昼夜問わず無料で開放し、自動車等がスムーズに避難できるようにするものです。停電時も想定し、地元消防団（見能林分団第5班）や見能林町石仏地区自主防災会が鍵を管理し、対応に当たることにしています。津峯観光株式会社代表取締役社長の玉置 潔さんは、「人命が第一。さまざまな形で市民の皆様が協力していきたいです。」と、市の防災対応に力強いお言葉をいただきました。沿岸部に位置する見能林地区では、かねてから高台への迅速な避難が課題とされ、4月22日に開催された沿岸地域自主防災会長との意見交換会では、「避難時の津峯スカイライン無料通行化」の要望が上げられていました。

今回の調印を受け、見能林町石仏地区自主防災会長の井利元隆志さん（見能林町）は、「地元要望が早期に実現し大変うれしく思います。避難指示が出された3月11日には、料金所から国道まで長い車の列ができていただけに、安心して避難することができました。ただし、避難は徒歩が原則。道路の状況しだいでは車での避難が困難となるため、今後防災訓練等を通じて適切な避難行動の確認を行いたい。」と話していました。



「阿南市教委ネットシステム」で緊急時の連絡体制を構築

緊急時に阿南市教育委員会学校教育課から阿南市内の各幼稚園・小学校・中学校に一斉メール送信を行う「阿南市教委ネットシステム」が導入され、10月5日から運用が始まりました。

このシステムは、阿南市教育委員会学校教育課と市内各校園の管理職の間をNTTドコモの@once（アットワンス）で結び、緊急時に一斉メールを送信するシステムです。

東日本大震災時では、電話やファクシミリが使えなかった事象を受け、専用回線を通じて配信できる@onceを活用した連絡体制を構築しました。

配信する内容は、不審者情報や警報・注意報などの気象情報、市教育委員会からの災害に関する指示・連絡などです。

9月1日に幼稚園長会で、13日に中学校長会で、28日の小学校長会での説明を経て、市内の全幼稚園、全小・中学校の賛同を得て、運用を開始しました。

災害情報メール  
配信サービス運用開始

NTTドコモの緊急速報「エリアメール」を活用した災害・避難情報の配信サービスを、9月17日から開始しました。

このサービスは、災害などの緊急時において、阿南市からの災害・避難情報を市内全域のNTTドコモのエリアメール対応携帯電話へ一斉配信するサービスで、受信時には、警告音やポップアップ表示でお知らせします。申し込みは不要で、月額使用料や通信料もかかりません。送信される情報は次のとおりで、5分後、10分後にも自動送信されます。

▼お知らせする災害・避難情報  
避難勧告、避難指示の発令・解除、津波注意報、津波警報、大津波警報の発表・解除



ホームページアドレス  
<http://www.city.anan.tokushima.jp>

▼ご注意ください  
通話中、パケット通信中およびその他の通信中並びに電波状態が悪い場所では「エリアメール」を受信することができません。機種によっては、一部、受信設定が必要となります。

▼くわしくは  
市ホームページ（組織から探すの市民安全局のページ）をご覧ください。  
今後、他の携帯電話会社からの同様のサービスが提供された場合には、順次対応していく予定です。



夜間の避難経路確認

駆け足で坂道を上ってきた谷村さんとご家族の皆さん。

「防災の日」の9月1日、橘地区で、夜間に強い地震が発生し、大きな揺れと共に大津波警報が発表されたことを想定した防災訓練が行われ、約1000人の住民が訓練に参加し、避難経路の確認などを行いました。

午後8時、防災無線で避難を呼びかけるサイレンが鳴らされると、地域住民はヘルメットや防災頭巾をかぶり、懐中電灯や非常用持ち出し袋を持って最寄りの避難場所へ避難。家族7人揃って走りながら橘地区防災公園に避難していた谷村俊郎さんは、「サイレンを聞いて営業中の店を閉め、すぐに避難しました。家の近くに高台があることは心強く、避難は必ずここに家族の間で決めていきます。地震はいつ起こるか分からないので、夜間に訓練を行っておくことも大切。東日本大震災以降、橘地区では津波避難の意識は高まっています。」と話していました。

橘地区防災公園では、9地区から266人の避難者を確認しました。

宇宙の研究・開発に興味津々



「空へ宇宙へ2010-2011」と題したビデオで、最新の宇宙開発や宇宙研究について学ぶ参加者の皆さん。

「宇宙の日」を記念して9月17日に科学センターで行われた特別講演会。県内外から51人の親子連れが参加し、JAXA（宇宙航空研究開発機構）人事部長の山本静夫さんによる「最近の宇宙開発」と題した講演会が行われました。「暮らしを豊か・便利にするため」「地球からの脱出を目指して」「宇宙のなぞを解明するため」をテーマに、スライドやビデオを用いて最新の宇宙開発や私たちの身の回りに使われている宇宙・航空技術などの説明が行われ、参加した親子連れは興味深そうに耳を傾けていました。

将来、宇宙飛行士になりたいという夢を持つ小川涼貴さん（今年4年）は、「いろんな国が参加して宇宙ステーションで実験をしているのがすごいと思いました。僕も将来、宇宙飛行士になって、いろんな星に行つて実験してみたいです。」と話していました。

講演会に先立って「宇宙の日作文絵画コンテスト」の表彰式が行われ、受賞した子どもたちは笑顔で賞状を受け取っていました。阿南市の方で受賞された方をご紹介します。

- 絵画の部  
▼優秀賞 森野星弥さん（吉井小3年）  
▼佳作 篠岡 歩さん（津乃峰小3年）  
▼優秀賞 船奥穂乃佳さん（富岡小5年）
- 作文の部  
▼優秀賞

健康管理に  
薬草はいかが



徳島県薬草協会阿南支部による「身近な薬草展」が、9月10日と11日の2日間、道の駅・公方の郷なかがわで開催されました。

ずらりと並べられた薬草は、外来種と国内種とを合わせて約100種類。中には、新型インフルエンザの治療薬「タミフル」の薬剤に用いられる八角（土八角）や、甘味料として飲料水などに用いられるステビアなども展示されました。

また、薬草の販売コーナーでは、来場者が効能や服用の仕方などを聞いたりしながら、お気に入りの薬草を買い求めています。

この展示会を機に薬草協会の会員になったという井上志津子さん（那賀川町）は、「以前から薬草に興味があり、展示会では専門の方にいろいろ教えてもらうことができ、勉強になりました。」と、地元での開催に満足そうに話していました。

主催した徳島県薬草協会会長の松下藤夫さん（橘町）は、「こうした展示会で薬草のことに少しでも興味をもっていたら、健康管理に役立ててほしい。」と話していました。

